

JICA 日系社会シニア・ボランティアの小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

今回は、サルタ日本語学園における日本語教師としての活動をご紹介します。

私がサルタ日本語学園に着任して 8 カ月が過ぎました。着任直後の 3 か月間は『様子見の期間』と言われていましたが、1カ月を過ぎてすぐに 3 つのクラスを任されることになりました。

日本から遠く離れたアルゼンチンで、しかもスペイン語という共通語がある環境の中で、日本で教えていたときと同じ直説法（日本語だけで教える方法）で日本語を教えても大丈夫なのか少し不安でした。しかし、私ではなく、学習者達がすばらしく、しっかりとついてきてくれました。



彼らが日本語を学習する動機は、『日本文化へのあこがれ』『アニメが好き』など様々です。日本へ旅行したいとか、日本で働きたいとかいう現実味のある理由ではないようです。英語やフランス語を学ぶのと同じ感覚で、選択肢の一つとして日本語を学んでいる感じです。

日本人にとってアルゼンチンは遠く離れた、なじみのない国ですが、移民の国であるアルゼンチンの人々にとって、日本は全く違う文化をもった憧れの国、行ってみたいけど行けない国です。そして、日本に対してはとても好意的です。日本語は英語やフランス語に匹敵する魅力的な言語なのです。アルゼンチン人のこの『日本びいき』の背景には日系移民の方々の功績が大きく影響していると思います。

**注記：**

日系移民の方たちは、クリーニング店や花栽培に従事し、その仕事ぶりから地域の人々から厚い信頼を勝ち得ています。日系移民の方々の話になると長くなりますので、また別の機会にさせていただきますね。

3カ月が過ぎたころ、クラスで巻きずしを作りました。サルタではまだ江戸前寿司を知っている人は少なく、寿司と言えば巻きずし。でも、学習者達にとっては高根の花。自分で作った巻きずしをタッパーに詰め家族へのお土産にしました。



さて、みなさんは日本語能力検定試験をご存じでしょうか。TOEICの日本語バージョン  
と言えご理解いただけるでしょうか。N5～N1までのレベルがあり、数字が小さくなる  
ほど難しくなります。海外では国際交流基金が世界中で実施しています。しかし、アルゼン  
チンでは、この下のレベルである『ときめき日本語レベルテスト N7、N6』を独自で行って  
います。2017年11月に2週間の試験対策をし、おかげさまで受験した12人全員が高得点  
で合格しました。そして、つい先日の4月21日、サルタ日本語学園で認定式を行いました。  
教師として本当に嬉しい出来事でした。



話を戻して世界中で行われている日本語能力検定試験ですが、この試験を受けるにはブエノスアイレスまで行かなければなりません。サルタの学習者にとっては、受験料だけでなく往復の飛行機代、ホテル代などかなり費用がかかり、大変な負担です。それにも関わらず、今年月に行われる検定試験に7人が挑戦します。現在、その受験対策を行っています、『ときめき日本語レベル検定試験』同様、全員が合格すると信じています。

日本人が知らないところで、たくさんのアルゼンチン人が一生懸命日本語を勉強しています。





誰かを誘うときの  
『～ましょう』、  
『～ませんか』  
を学習したあと、  
2週間後に控えた盆栽の  
PRポスターを  
作りました。

# 緑の日

盆栽は楽しくて  
おもしろいです!

ぜひ来てくださいね。

盆栽は日本の文化は  
皆さんいっしょにつくり  
ましょう!



盆栽

~Bonsai~

いつ: 4月28日 (土曜日) (20/4-Saturday)

どこで: サルサ日本語学園 (Escuela de Japanese Language of Salsa)

持ち物: はさみ (tijera), 植木 (planta), 針金 (alambre), 植木鉢 (maceta).

申し込み: モイセス (Tel. 3. = 876 111 013).

\*☂: あります. (we have umbrella)